

平成 28 年大阪医科大学医師会総会議事録

大阪医科大学附属病院中央検査部／書記 村尾仁

日 時：平成 28 年 6 月 13 日（月）18：30～19：30

場 所：大阪医科大学第 2 会議室（総合研究棟 12 階）

出 席：米田会長、 森脇副会長、鳴海副会長、梶本理事、 萩森理事、 村尾理事、
内山評議員、岡田評議員、辰巳評議員、新田評議員、根尾評議員、大道評議員、
寺崎評議員、元村評議員、臼田会計、 石坂委員、 富岡委員、 池田委員、
西本委員、 片山委員 (敬称略)

出席 20 名、委任状 276 名 計 296 名

定足数(会員数の過半数 248 名)を満たす出席者があることから本総会は成立する

議長に森脇副会長が選出され、議事が進められた。

会長挨拶

日頃から医師会運営にご協力いただきありがとうございます。大学医師会は規模も大きく、まとまった活動を行い、様々な事業を展開してきました。北摂にある近隣の市区医師会は法人ですが、大学医師会は大学医師会らしく、活動をしてきたいと思います。これからも、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

1. 平成 27 年度事業報告ならびに平成 28 年度事業計画（米田会長）

1) 大阪医科大学医師会の充実

5 月 31 日時点での会員数は、昨年度が 493 名、今年度が 495 名でほぼ同数であった。研修医の入職時のオリエンテーションにおいて、米田会長が日本医師会と大阪府医師会と大阪医科大学医師会の役割の違いや、医賠償保険等について説明し、勧誘を行った。大阪府医師会主催の新研修医ウェルカムパーティーが開催されたが、両年とも大学のオリエンテーションと重なっており参加が難しく、参加者が少なかった。大阪市立大学の研修医が多く参加していた。日程が変わると参加が可能なので、来年度は研修センターと相談したい。研修医から医師会の役割がわかりにくいという声があるので、わかりやすく説明していきたい。

医師賠償責任保険の種類の調査を平成 27 年度に行った。日本医師会、大阪医大サービス、学会が案内している保険について比較を行った。引受保険会社は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、三井住友海上火災保険株式会社の 3 社であった。支払限度額 1 億円での年間保険料は、日本医師会が A2B 会員 54,000 円 A2C 会員 33,000 円で、他社は 40,660 円が主流であった。日本医師会は、医療に精通した弁護士を有していて、医師ができるだけ矢面に立つことなく紛争を解決できるように、訴訟・示談などの交渉を代行する仕組みが整っている。

副会長を務めていただいた花房教授が定年退職されたので、鳴海教授に後任をお願いし、森脇教授との二名体制で進めていく。役員任期は、1 期 2 年で再任を妨げないことが規定されている。任期開始日がわからなくなっているため、本日を開始日とし、2 年後に役員改選を行うこととなった。

昨年度より、日本医師会電子認証センターにおいて医師資格証の発行が開始されている。医師資

格証とは、全国で統一された医師資格を証明する電子的な証明書を格納した顔写真付き IC カードである。医師であることの証明ができることはもちろん、緊急災害時(JMAT 活動等)や交通機関での急病人対応の際に医師資格保有者であることを証明できる。初年度発行手数料及び最初の 5 年の年間利用料が無料となり、申請しやすくなった。

日本医師会生涯研修制度は、医師免許生涯交付のために医師が自主的にしっかり研修していることを示す大切な制度である。研修会参加時には、必ず大阪府医師会生涯研修チケットを提出するよう、大阪府医師会からも強く求められている。

当医師会のホームページは、例年通り更新していく。

会員のメールアドレス調査を行った。今後、当医師会からののお知らせや案内は、書面ではなく電子メールを利用していく。

2) 大阪医科大学医師会の学術活動

「大阪医科大学医師会報」は、昨年度は、「大阪医科大学における専門医制度について」を特集した 44 号を 9 月に発刊し、「女性医師のキャリアを支える」を特集した 45 号を 3 月に発行した。「大阪医科大学医師会報」は 45 号よりオンラインジャーナルのみの提供とし、冊子体での発刊を行わないこととなった。デザインも一新し、カラーで見やすい紙面とした。経費削減にも貢献し、また Web 上で執筆原稿を確認し電子メールで意見交換を行えるので、各号 2 回ずつ実施していた編集委員会を 1 回とし、作業の効率化も図れた。今年度は、新大阪府医師会長に就任された茂松先生にご執筆いただき「医師会の今後～すべての医療者が連携を～」を特集した 46 号を 9 月に、47 号を 3 月に発刊を予定している。

学会等助成は、平成 26 年度に選考した平成 27 年度分 5 学会に各 10 万円計 50 万円を助成し、6 月 13 日に開催した大阪医科大学医師会総会内で贈呈式を行った。平成 28 年度分は、平成 27 年 10 月に公募を行い、12 月に選考を行い、2 学会に助成することとし、うち 1 学会に 10 万円を、もう 1 学会は地方会であるので半額の 5 万円を助成し、本総会で贈呈式を行った。平成 28 年 10 月に平成 29 年度分の公募を行う。今後、研究会も助成の対象としていきたい。

北摂四医師会医学会総会は、平成 27 年度は、高槻市医師会が担当し、6 月 6 日(土)に大阪医科大学 P101 教室で、特別講演 1 題、一般演題 10 題の発表があった。平成 28 年度は、大阪医科大学医師会が担当し、6 月 11 日(土)に大阪医科大学臨床第 I 講堂で、特別講演 1 題、一般演題 9 題の発表があった。優秀演題賞は、昨年度まで大阪府医師会勤務医部会第 2 ブロックが贈っていたが、今年度から北摂四医師会医学会が引き継いでいる。活動中の分科会は年 1 から 2 回研究会を開催し、産業医講習会も 1 回開催している。研究会は各分科会に運営をお願いしている。今後、地域での研究会も把握していきたい。

大阪府医師会勤務医部会第 2 ブロックは、ブロック委員会を 4 回開催し、積極的に活動した。平成 27 年度は北摂四医師会医学会総会一般演題の中から優秀演題賞を 1 題選出して 5 万円ずつ賞金を授与した。平成 28 年 1 月 10 日に開催した第 2 ブロック研修会では、「病院・院内で発生するトラブルと事前・事後の対応法」について講演をいただいた。平成 28 年度は、平成 29 年 1 月 14 日(土)を予定している。

3) 日本医師会・大阪府医師会・在阪 5 大学医師会・地域医師会との連携強化

日本医師会の代議員会に米田会長が参加している。平成 28 年 6 月 25 日に開催される第 137 回定例代議員会で、日本医師会役員を選出が行われ、横倉体制が継続されるかが決まる。

大阪府医師会の郡市区等医師会長協議会や代議員会、各種部会や委員会に積極的に参加した。会長協議会が開催される金曜日の14時は、出席が難しい時間帯である。

平成27年11月5日に在阪5大学医師会ならびに2行政医師会役員と勤務医部会役員との懇談会が開催され、当医師会から5名出席し、鈴木教授に新研修医制度の現状と問題点について発表いただいた。平成28年度は12月1日に予定されている。テーマが決まれば、専門の先生に出席をお願いする。

全国医師会勤務医部会連絡協議会総会が、平成27年度は10月24日(土)に秋田キャッスルホテルで開催された。平成28年度は11月26日(土)にリーガロイヤルホテルで開催が予定されている。今年度の幹事は大阪府医師会である。女性医師支援が大きなテーマとなっており、玉置教授をお願いしている。

全国大学医師会連絡協議会は開催がなかった。

2. 平成27年度会計報告・会計監査報告（臼田会計）

臼田会計より会計報告が行われた。土手監事と麻田監事ともに、会計報告に間違いがないことを認めた。全会一致で承認された。

4. 平成28年度予算案（臼田会計）

臼田会計より前年度と同じ事業を展開するための予算案の提示があった。

過年度過払い金については、今まで会費を支払わずに退会した会員の会費は会員でまかなってきたが、今年度はあと1人となり今年度中には回収できる見込みである。

大阪府医師会から群市区医師会交付金が、日本医師会から医学奨励金が、会員数に応じて交付されており、この金額が実質的な活動資金となっている。

熊本地震支援金は大阪府医師会からの依頼による。

単年度で見ると100万円程度赤字である。当医師会は、任意団体としては繰越金額が多いので、毎年100万円ずつ減らしていきたいと考えている。今年度予算案は、全会一致で承認された。

5. 平成28年度学会等助成贈呈式

採択された2題について目録を贈呈した。

以上